

* 研究授業からの学び *

2021.12.7
No.4
文責 新玉

令和3年 10月20日(水)

西土佐中学校 第3学年 総合的な学習の時間 栗本 健 福田 千恵 山崎 美月 教諭

単元名 「自分発見～地域の思いを継承し、自己の生き方を考えよう～」

小単元2 「地域で働く人から学び、地域貢献や自己の生き方を考えよう」(全32時間)

<単元でつきたい力>

- ・働くことの意義を知るとともに、働くことが自分自身や他人のためになっていること、西土佐地域の為になっていることに気付く。【知識及び技能】
- ・西土佐地域の継承者として、地域で働く人の思いや、自分たちにできることは何かを考えて課題を設定し、その解決に向けて情報を分類したり、効果を考えたりしながら適切な表現方法を組み合わせたりしている。【思考力、判断力、表現力等】
- ・課題解決に向けて、地域と仕事や地域と自分の関わりに関心を持ち、将来に向けて今後の学習を積極的に考えようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

地域の継承者として、自分たちの生活と関わらせながら、地域の活性化のために主体的に考えることができる。

本時の評価規準

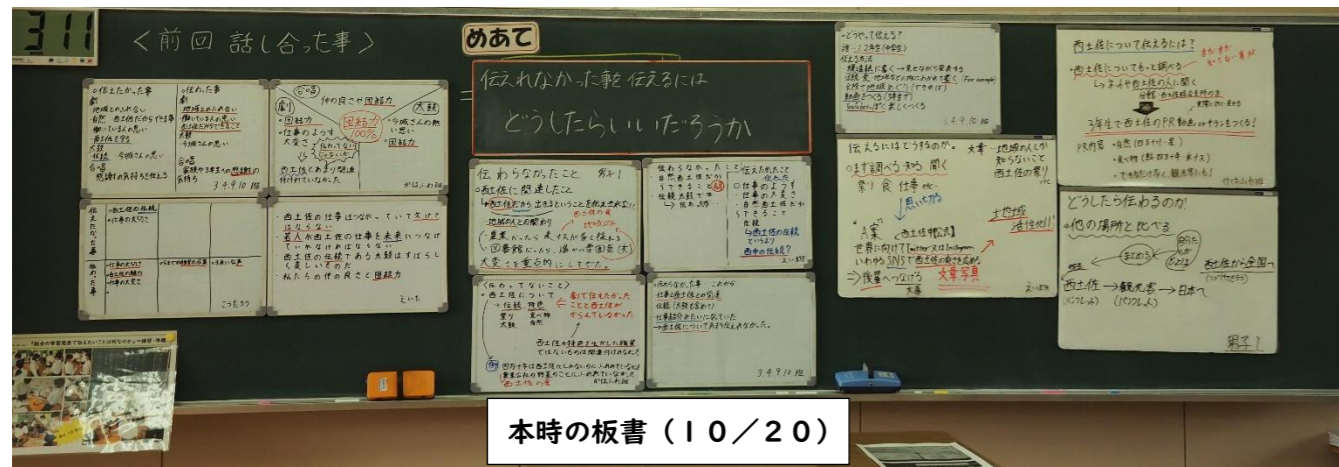
地域を支える仕事と自分との関わりに関心を持ち、今後の学習や生活について積極的に考えようとしている。【態】

本時の授業風景

自分達が何をしたら地域貢献になるだろう。西土佐の伝統や特色を伝えることができている。西土佐だからできることを伝えたい。



まだまだ知らないことがある。もっと地域の人、分館や総合支所の人に聞いて調べよう。ほかの地域と比べてみることもできる。



本時の板書(10/20)

研究協議より(抜粋)

授業者より

- 生徒が主体となって活動に取り組むことができた。
- 文化祭の発表の振り返りから、新たな課題について話し合うことができた。
- 発表により伝わったこと、伝わらなかったことを確認させ、地域貢献のための発信の方法について考えさせることができた。
- 生徒と教師で打ち合わせをしたが、意識のずれがあった。
- 自分たちの思いが「伝わった、伝わらなかった」ことについての振り返りに時間を要した。

参観者より

- 地域について考えることができている、自然に地元思考になっていた。
- 子どもと教師が事前に打ち合わせをして活動に取り組み、教師が軌道修正もできていた。
- 子どもが発信方法を考え、主体的に学習していた。
- 西土佐の良さを再確認し、他の地域の情報も取り入れて比較して考えることができていた。
- 何のためにPRするのか原点に戻って考えさせ、目的を明確にして考えさせることが大事。
- 学校外で太鼓の発表をする場を設けるなど、外部人材を活用して連携、協力する。

指導主事より

- ・子どもの力・子どもが主体となって活動に取り組んでいた。
- ・本時はゴールであり、出た意見をどう整理するのか。
- ・生徒の思考を深め、ねらいに迫るために、生徒の反応を可能な限り予想しておくことが大切。
- ・比較より、西土佐への思いを高めさせたい。
- ・本時のゴールに向けて発信方法がたくさん出た。それを整理しまとめることは教師がする方法もある。

授業者のリフレクションより

生徒との打ち合わせが不十分だったことで、教師の意図が十分伝わっていなかったように思う。何のための話し合いか、目的を再確認する必要性を感じた。今後、目的を確認しながら活動を進めていく。

また、目的意識のために、やるべきことは何なのか考えを深めさせるとともに、地域の継承者としての自覚を深めさせたい。

☆これから取り組んでいきたいこと

* 生徒と教師との意識の差
想定しためあてと生徒の考えためあての相違

* 地域・外部機関との連携